

報道関係 各位

平成 22 年 9 月 11 日  
独 立 行 政 法 人  
日本原子力研究開発機構  
敦 賀 本 部  
(22-029)  
(16 時 00 分記者発表)

### 高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る調査状況について

高速増殖原型炉もんじゅ（定格出力 28 万 kW）は、現在、燃料交換作業の後片付け作業中ですが、8 月 26 日、原子炉建物において炉内中継装置<sup>\*1</sup>を取り外す作業中に、原子炉容器内より約 2 m 位吊り上げた位置から落下しました。

その後の調査により、原子炉機器輸送ケーシング（AHM<sup>\*2</sup>）吊り上げ装置グリッパの爪<sup>\*3</sup>を開閉する「爪開閉ロッド」が、連結部の U 字金具のネジが緩み、約 90 度回転していたことを確認しました。また、落下した炉内中継装置は、正規の位置に保持されていること及び頂部のファイバースコープ等による観察の結果、欠け・変形等の異常のないことを確認しました。

一方、AHM の 2 つのグリッパ爪のうち、270 度方向に設置されている爪の両端においてずれ痕が、90 度方向の爪については、ずれ痕は無いものの、傷が確認されました。

【8月26日、29日、9月2日、3日お知らせ済み】

AHM のグリッパ爪においてずれ痕などが確認されたことから、9 月 11 日、炉内中継装置の頂部（ハンドリングヘッド<sup>\*4</sup>）のグリッパ爪のかかる 2箇所について、前回観察できなかった内側垂直面他を CCD カメラによる観察を実施しました。

ハンドリングヘッド部の 270 度方向の内側垂直面にすり痕が、90 度方向の内側垂直面に細かい筋状のすり痕が確認されましたが、ハンドリングヘッドの内側下面には、すり痕等は認められませんでした。

今後とも、安全を最優先に透明性を確保し、炉内中継装置落下に係る調査検討などを継続して行ってまいります。

\* 1 : 燃料交換時に炉心と燃料出入設備との間で炉心構成要素を移送する燃料交換設備の構成機器の一つ。

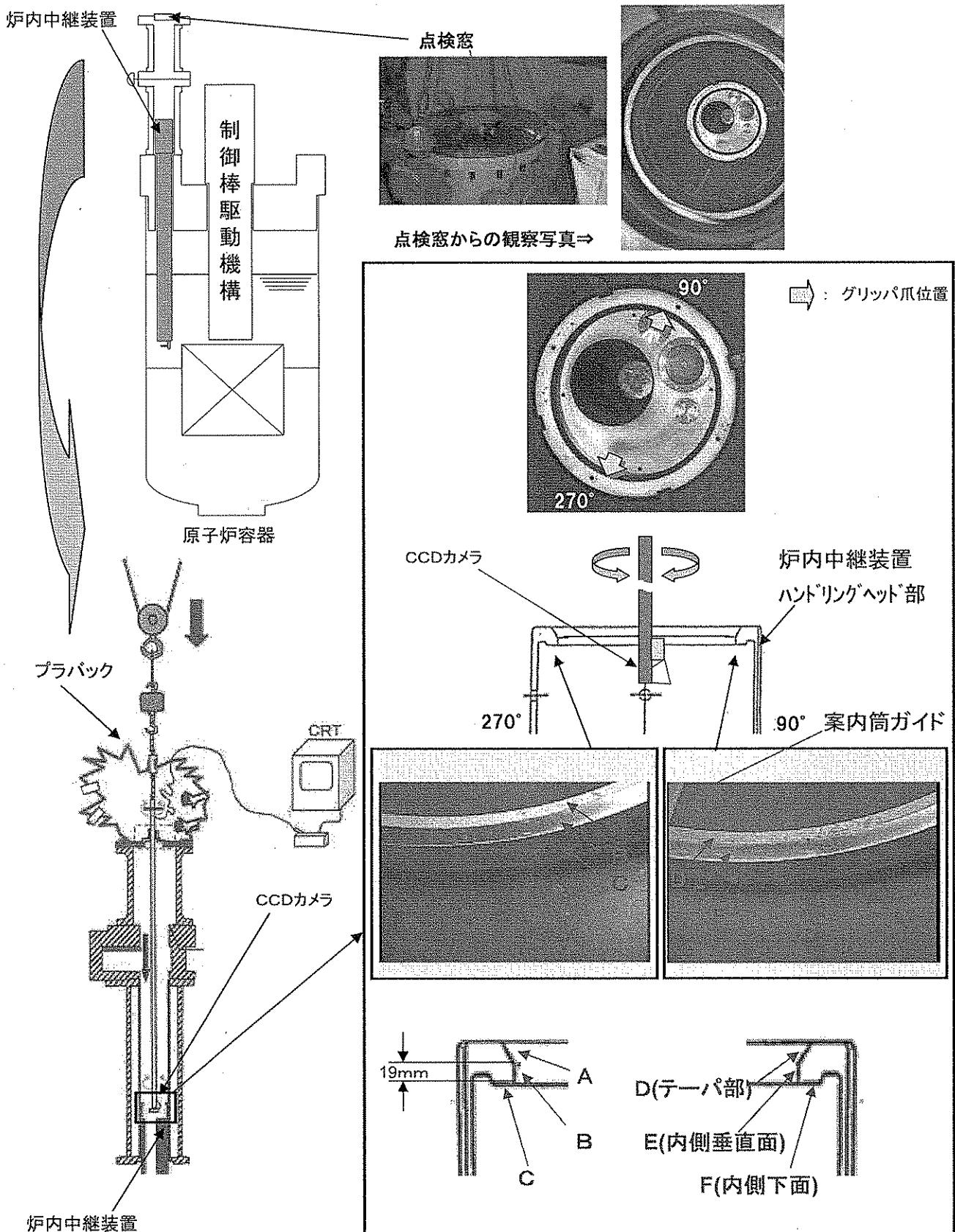
\* 2 : AHM (Auxiliary Handling Machine)

\* 3 : グリッパに取り付けてある、炉内中継装置を掴むための爪のこと。

\* 4 : 炉内中継装置を吊り上げ、吊り下ろすため、AHM 吊り上げ装置グリッパ爪によって掴む炉内中継装置の上部をいう。

以 上

【本件に関する問い合わせ先】  
独立行政法人  
日本原子力研究開発機構 敦賀本部  
業務統括部 広報課長 森 将臣  
電話：0770(21)5023 (直通)



炉内中継装置上部ハンドリングヘッドの観察結果